

もしこの世に自分一人しか いなくなったら(ぼっち)

一人相撲ならぬ、一人野球を想像してみる。先ず自分がピッチャーで、思いっきりホームベース目がけて投げる。投げると同時にボールを追い越して、普通のグラブからキャッチャーミットに持ち替えて、ボールを受けに行くことになる。しかし、その前にバッターボックスに入ってボールを見極めて、いい球だったら、スイングし、見逃しまたは空振りであれば、すぐさま捕手として、ボールを受けなければならない。もし、スイングの結果ボールがファウルラインの内側に飛んだならば、その球足を見極め、急いで今持っているキャッチャーミットを投げ捨て、野手用のグラブに持ち替え、捕球の体制に入らなければならない。もし、スイングの結果が仮にショート方面のゴロであった場合は、速やかにショート方面へ移動し、かつバッターランナーとして一塁方向へ全力で疾走しなければならない。一方、仮説を継続しショートの位置で捕球したとした場合、速やかに一塁へ送球すると同時にグラブをファーストミットに持ち替えて、送球を追い越して一塁における捕球体制に入らなければならない。一方ランナーとして、全力で一塁へ駆け抜けけると同時にすぐさま塁審の服に着替えて、その一塁への送球と走者の足がどちらが早かったか判定しなければならない。と同時に捕手として一塁の後ろ側へ全力で、ショートの送球ミスまたは、ファーストの捕球エラーを想定しそれらをカバーする目的で、一塁方向へ全力で走らなければならない。賢明なる読者各位におかれましては、是非これを実践していただきたいし、完遂して欲しい。平凡なる読者各位におかれましては、大いにゲラゲラ笑ってちょうだい。それをする意味が見いだせない。それ以外の読者各位におかれましては、一人野球と聴いた瞬間、うすうす無理があるなど気付かれ、瞬間その想像力を閉じ、思考停止に陥るのであろう。それで、何人いれば野球はできるの？9人は誤りですよ。

ある日、突然、ドアを開けて、ドアの内側から外側へ出た瞬間に、自分一人しかいなくなったらどうなるであろう。先ず家族を捜しに行くのであろう。携帯に電話してみるも、どうやら全面的な停電で、発信音はするが、応答はない。そのうちに電池切れ、充電しようと試みるも、停電は解消されない。数日なんとか知恵を絞り生き延びたが、まだ誰とも出会えない。認めたくはないが、どうやら、真にひとりぼっちになってしまったのだと認識せざるを得ないこととなる。それでも、微かな希望をもって、懸命に生きるために、生きることになり、知恵があるので暫くは、なんとか生き延びることは可能であるが、その知恵が災いし生きる意義を見失ってしまう可能性は十分ある。人間一人では生きていけないとことを認識し、人間として生きていたのではなく、生かされていたことに気付くのである。そして、将来ある方にそれを伝えなければならないが、伝える人がいないのである。